

平成21年度  
事業報告書

学校法人 常葉学園

# 目 次

1. 法人の概要	
(1) 建学の精神 .....	1
(2) 学校法人の沿革 .....	1
(3) 設置する学校・学部・学科等 .....	4
(4) 学校・学部・学科の学生生徒等数の状況 .....	5
(5) 役員の概要 .....	6
(6) 評議員の概要 .....	7
(7) 教職員の概要 .....	8
2. 事業の概要	
(1) 事業の概要 .....	9
(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況 .....	9
(3) 施設等の状況 .....	20
(4) その他 .....	22
3. 財務の概要	
(1) 財務の概要 .....	23
(2) 資金収支計算書 .....	24
(3) 消費収支計算書 .....	25
(4) 貸借対照表 .....	26
(5) 主な財務比率比較 .....	27
(6) 借入金の状況 .....	27
(7) 寄付金の状況 .....	27
(8) 補助金の状況 .....	27

# 1. 法人の概要

## (1) 建学の精神

本法人の建学の精神は、次に掲げるとおりです。

### 建 学 の 精 神

常葉学園は、学問の研究と人間の育成に限りない情熱を傾けられた日本史学の泰斗木宮泰彦先生によって、昭和二十一年に創立された。「戦後の混沌とした日本を再び立ち上がらしめ、光輝ある平和な文化国家を建設するためには、先ず教育の力にまたなければならない。」とのゆるぎない信念のもとに、敢えて困難をも顧みず常葉学園の創立にあたられたのである。この教育の力に対する創立者の信頼と確信こそは、本学園の建学の精神の根本である。

創立者木宮泰彦先生は「万葉集」に見える聖武天皇の御製

橘は 実さへ 花さへ その葉さへ  
枝に霜ふれど いや常葉の樹

に因んで学園を「常葉」と名づけ、その理想の姿を橘の瑞木に託された。霜雪に耐えてつねに青々とした葉を繁らせ、純白で香り高い花を咲かせ、豊かな黄金の実を結ぶ橘こそは、常葉学園の教育理念の象徴である。即ち、本学園の理想とする人間像は、美しい心情をもって、国家・社会・隣人を愛し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にもうち克ち、より高きを目指して学び続ける人間である。

百丈禅師のことば「一日<sup>な</sup>作さざれば一日<sup>くら</sup>食はず」を自戒として、日々研鑽を積まれた学園創立者木宮泰彦先生の生涯は、まさにこの建学の精神の具現であった。先生は順境に奢らず、逆境にめげず、常によりよき自己の実現のために、生涯にわたって真摯な努力を続けられた。この創立者の精神こそ常葉学園にかかわるすべてのものの心である。

## (2) 学校法人の沿革

昭和21年	6月	静岡女子高等学院創立
昭和22年	11月	静岡女子高等学院設置認可
昭和23年	2月	財団法人常葉学園設置認可
	4月	常葉中学校開校
昭和25年	12月	財団法人から学校法人へ組織変更認可
昭和26年	8月	静岡女子高等学院を高等学校として設置認可
	10月	静岡女子高等学院を常葉高等学校に名称変更認可
昭和27年	4月	常葉高等学校（普通科）開校
昭和28年	7月	各種学校たる静岡高等女子学院廃止認可
昭和38年	4月	橘高等学校開校
昭和40年	4月	橘中学校開校

昭和41年	4月	常葉女子短期大学（国文科、保育科）開学 常葉女子短期大学附属とこは幼稚園開園
昭和43年	4月	常葉女子短期大学に音楽科設置
昭和45年	4月	常葉女子短期大学に専攻科（保育専攻、音楽専攻）設置 常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園開園
昭和46年	4月	橘高等学校に音楽科設置
昭和47年	4月	常葉女子短期大学に英文科、美術・デザイン科設置 常葉短大附属菊川高校（普通科、美術・デザイン科）開校
昭和53年	4月	常葉学園橘小学校開校 学園内各校（園）の名称変更 ○常葉女子短期大学→常葉学園短期大学 ○常葉女子短期大学附属とこは幼稚園→常葉学園短期大学附属とこは幼稚園 ○常葉女子短期大学附属たちばな幼稚園→常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園 ○常葉高等学校→常葉学園高等学校 ○常葉中学校→常葉学園中学校 ○橘高等学校→常葉学園橘高等学校 ○橘中学校→常葉学園橘中学校 ○常葉短大附属菊川高校→常葉学園菊川高等学校
昭和55年	4月	常葉学園大学（教育学部初等教育課程）開学
昭和56年	4月	常葉学園橘小学校を常葉学園大学教育学部附属橘小学校に名称変更
昭和58年	4月	常葉学園橘高等学校に英数科設置
昭和59年	4月	常葉学園大学に外国語学部（英米語学科、スペイン語学科）設置
昭和63年	4月	常葉学園浜松大学（経営情報学部経営情報学科）開学
平成2年	4月	常葉学園富士短期大学（商学科、国際教養科）開学
平成5年	4月	常葉学園短期大学専攻科（保育専攻、音楽専攻）が学位授与機構から認定専攻科の認定を受ける
平成6年	4月	常葉学園浜松大学に国際経済学部（国際経済学科）設置 常葉学園短期大学専攻科（美術・デザイン専攻）[学位授与機構認定専攻科]設置
平成7年	4月	常葉学園短期大学国文科を国語国文科に英文科を英語英文科に名称変更するとともに専攻科国語国文専攻 [学位授与機構認定専攻科] 及び留学生別科設置 学校法人浜松常葉学園が発足し、常葉情報専門学校開校

平成 8年	4月	常葉学園大学大学院国際言語文化研究科（国際教育専攻、英米言語文化専攻）設置 常葉学園浜松大学大学院経営学研究科（経営学専攻）設置 常葉学園医療専門学校（理学療法学科、作業療法学科）開校 常葉情報専門学校を常葉環境情報専門学校に名称変更
平成10年	4月	常葉学園大学教育学部に生涯学習学科設置 常葉学園浜松大学を浜松大学に名称変更
平成12年	4月	富士常葉大学（流通経済学部流通経済学科、環境防災学部環境防災学科）開学
平成13年	4月	浜松大学経営情報学部に情報ネットワーク学科設置 常葉学園短期大学国語国文科を日本語日本文学科と名称変更
	10月	常葉学園富士短期大学廃止認可
平成14年	4月	常葉学園大学に造形学部（造形学科）設置
平成15年	4月	常葉学園菊川中学開校 常葉学園短期大学留学生別科廃止
平成16年	3月	常葉学園短期大学美術・デザイン科及び専攻科(美術・デザイン専攻)廃止
	4月	常葉学園大学教育学部に心理教育学科、外国語学部にグローバルコミュニケーション学科設置
平成17年	4月	浜松大学に健康プロデュース学部（健康栄養学科、こども健康学科、心身マネジメント学科）及び留学生別科設置 常葉学園医療専門学校に鍼灸学科、柔道整復学科設置 常葉学園静岡リハビリテーション専門学校（理学療法学科）開校
平成18年	4月	富士常葉大学に大学院環境防災研究科、保育学部（保育学科）、留学生別科を設置するとともに流通経済学部（流通経済学科）を総合経営学部（総合経営学科）に名称変更
平成19年	4月	常葉学園大学大学院に初等教育実践研究科（初等教育高度実践専攻）設置 浜松大学にビジネスデザイン学部（経営情報学科、サービスと経営学科）設置
平成20年	4月	学校法人常葉学園が学校法人浜松常葉学園を吸収合併
	7月	常葉学園大学外国語学部スペイン語学科廃止届出
	9月	常葉環境情報専門学校廃止認可
平成21年	4月	浜松大学保健医療学部（理学療法学科、作業療法学科）設置 浜松大学大学院健康科学研究科設置

## (3) 設置する学校・学部・学科等

(平成21年5月1日現在)

学校名	開校年月	研究科・学部・課程等	専攻・学科・科	摘要
常葉学園大学	昭和55年4月	教育学部	初等教育課程	
			生涯学習学科	
			心理教育学科	
		外国語学部	英米語学科	
		造形学部	造形学科	
常葉学園大学大学院	平成8年4月	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	
		初等教育高度実践研究科	国際教育専攻	
浜松大学	昭和63年4月	経営情報学部	経営情報学科	※1
			情報ネットワーク学科	※2
		国際経済学部	国際経済学科	※3
		健康プロデュース学部	健康栄養学科	
			こども健康学科	
		ビジネスデザイン学部	心身マネジメント学科	
経営情報学科				
		サービスと経営学科		
			留学生別科	
浜松大学大学院	平成8年4月	経営学研究科	経営学専攻	
富士常葉大学	平成12年4月	総合経営学部	総合経営学科	
		環境防災学部	環境防災学科	
		保育学部	保育学科	
			留学生別科	
富士常葉大学大学院	平成18年4月	環境防災研究科	環境防災専攻	
常葉学園短期大学	昭和41年4月		日本語日本文学科	
			英語英文科	
			保育科	
			音楽科	
		専攻科	国語国文専攻	
			保育専攻	
		音楽専攻		
常葉学園医療専門学校	平成8年4月	医療専門課程	理学療法学科	※4
			作業療法学科	※5
			鍼灸学科	
			柔道整復学科	
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	平成17年4月	医療専門課程	理学療法学科	
常葉学園高等学校	昭和27年4月	全日制課程	普通科	
常葉学園橘高等学校	昭和38年4月	全日制課程	英数科	
			普通科	
			音楽科	
常葉学園菊川高等学校	昭和47年4月	全日制課程	普通科	
			美術・デザイン科	
常葉学園中学校	昭和23年4月			
常葉学園橘中学校	昭和40年4月			
常葉学園菊川中学校	平成15年4月			
常葉学園大学教育学部附属橘小学校	昭和53年4月			
常葉学園短期大学附属とこは幼稚園	昭和41年4月			
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園	昭和45年4月			

※1. 2. 3 平成19年度から学生募集を停止し、平成22年度をもって廃止予定

※4. 5 平成20年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止予定

## (4) 学校・学部・学科等の学生生徒等数の状況

(平成21年5月1日現在)

学 校 名	研究科・学部・課程等名	専攻・学科・科名	入学定員数	収容定員数	現員数
常葉学園大学	教育学部	初等教育課程	110	440	532
		生涯学習学科	60	230	269
		心理教育学科	60	260	278
	外国語学部	英米語学科	100	450	492
		グローバルコミュニケーション学科	70	300	256
造形学部	造形学科	80	330	293	
常葉学園大学大学院	国際言語文化研究科	英米言語文化専攻	10	20	2
		国際教育専攻	10	20	10
	初等教育高度実践研究科	初等教育高度実践専攻	20	40	20
浜松大学	経営情報学部	経営情報学科 ※1	-	190	214
		情報ネットワーク学科 ※2	-	55	28
	国際経済学部	国際経済学科 ※3	-	130	89
		健康栄養学科	80	340	282
	健康プロデュース学部	こども健康学科	60	280	156
		心身マネジメント学科	110	440	419
		経営情報学科	150	495	325
	ビジネスデザイン学部	サービスと経営学科	150	475	368
		保健医療学部	理学療法学科	40	40
	作業療法学科		40	40	21
浜松大学大学院	経営学研究科	留学生別科	40	40	46
		経営学専攻	15	30	36
	健康科学研究科	健康栄養学専攻	10	10	2
		臨床心理学専攻	10	10	13
富士常葉大学	総合経営学部	総合経営学科	160	670	720
	環境防災学部	環境防災学科	150	610	431
	保育学部	保育学科	80	330	353
		留学生別科	30	30	29
富士常葉大学大学院	環境防災研究科	環境防災専攻	10	20	7
常葉学園短期大学		日本語日本文学科	80	160	116
		英語英文科	80	160	131
		保育科	200	400	419
		音楽科	55	110	95
	専攻科	国語国文専攻	20	40	18
		保育専攻	20	40	25
常葉学園医療専門学校	医療専門課程	音楽専攻	20	40	43
		理学療法学科 ※4	-	120	115
		作業療法学科 ※5	-	120	87
		鍼灸学科	60	180	66
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校	医療専門課程	柔道整復学科	60	180	68
常葉学園高等学校	全日制課程	理学療法学科	80	320	264
常葉学園橘高等学校	全日制課程	普通科	240	720	574
		英数科	80	240	124
		普通科	420	1,260	743
常葉学園菊川高等学校	全日制課程	音楽科	40	120	38
		普通科	315	945	933
常葉学園中学校		美術・デザイン科	60	180	137
常葉学園橘中学校			80	240	151
常葉学園菊川中学校			90	210	210
常葉学園大学教育学部附属橘小学校			60	160	178
常葉学園短期大学附属とこは幼稚園			60	360	353
常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園				240	227
				230	250

※1. 2. 3 平成19年度から学生募集を停止し、平成22年度をもって廃止予定

※4. 5 平成20年度から学生募集を停止し、平成23年度をもって廃止予定

(5) 役員概要

理事13名(定数10人以上13人以内)

監事 5名(定数 2人以上 5人以内)

<平成21年4月1日現在>

区分	氏名	常勤・非常勤別	摘要
理事長	木宮健二	常勤	平成14年4月理事就任 平成14年4月理事長就任 平成19年4月富士常葉大学学長就任
副理事長	木宮一邦	常勤	平成9年4月理事就任(平成11年3月迄) 平成9年4月副理事長就任(平成11年3月迄) 平成14年4月浜松大学学長就任 平成14年4月理事就任 平成21年4月副理事長就任
副理事長	木宮岳志	常勤	平成19年5月理事就任 平成21年4月副理事長就任
常務理事	三浦均	常勤	平成17年4月理事就任 平成17年4月常務理事就任
常務理事	高木敏正	常勤	平成21年4月理事就任 平成21年4月常務理事就任
理事	海野泰男	常勤	昭和62年4月理事就任(昭和63年3月迄) 平成14年4月常葉学園大学学長就任 平成14年4月理事就任
理事	山本伸晴	常勤	平成18年4月常葉学園短期大学学長就任 平成18年4月理事就任
理事	吉村耕司	常勤	平成20年4月常葉学園橘中・高等学校校長就任 平成21年4月理事就任
理事	大石富之	常勤	平成20年4月常葉学園菊川中・高等学校校長就任 平成21年4月理事就任
理事	齊藤斗志二	非常勤	昭和63年3月理事就任(衆議院議員)
理事	山内啓司	非常勤	平成13年5月理事就任(スズキ株式会社顧問)
理事	中村隆行	非常勤	平成13年5月理事就任(株式会社ミホミ代表取締役)
理事	原田誠治	非常勤	平成21年4月理事就任(株式会社静岡新聞社常勤顧問)
監事	加藤正秀	非常勤	昭和62年10月理事就任(平成14年3月迄) 平成14年4月監事就任(学校法人加藤学園理事長)
監事	高木伯一	非常勤	昭和50年10月理事就任(昭和60年2月迄) 昭和60年3月監事就任(花の舞酒造株式会社相談役)
監事	石橋一郎	非常勤	平成6年4月理事就任(平成9年3月迄) 平成6年4月常務理事就任(平成9年3月迄) 平成9年4月監事就任
監事	堀敬史	非常勤	平成19年5月監事就任(学校法人亨栄学園理事長)
監事	齋藤安彦	非常勤	平成21年4月監事就任(弁護士)

## (6) 評議員の概要

評議員 45名(定数39人以上51人以内)

〈平成21年4月1日現在〉

氏名	在任年月	主な現職等
海野 泰男	34年11か月	常葉学園大学学長
木宮 一邦	18年	浜松大学学長
木宮 健二	7年 1か月	富士常葉大学学長
山本 伸晴	3年	常葉学園短期大学学長
内藤 恭久	新任	常葉学園医療専門学校校長
紫藤 徹郎	4年	常葉学園静岡リハビリテーション専門学校校長
永井 みや子	新任	常葉学園中・高等学校校長
吉村 耕司	4年	常葉学園橘中・高等学校校長
大石 富之	1年	常葉学園菊川中・高等学校校長
小林 成樹	4年	常葉学園大学教育学部附属橘小学校校長
大堀 昌子	3年	常葉学園短期大学附属とこは幼稚園園長
戸藤 篤子	3年	常葉学園短期大学附属たちばな幼稚園園長
三浦 均	4年	常葉学園企画監
高木 敏正	新任	常葉学園本部事務局長
鈴木 薫	1年	常葉学園大学副学長・外国語学部長
角 替弘志	8年	常葉学園大学副学長・大学院研究科長
中村 正義	10年	浜松大学副学長・国際経済学部長
田中 誠一	新任	浜松大学副学長
稲葉 光彦	3年	富士常葉大学副学長・保育学部長
畑 隆	新任	富士常葉大学総合経営学部長・図書館長
尾崎 富義	3年	常葉学園短期大学副学長
勝俣 元雅	24年	常葉学園大学第1回卒・静岡市立小学校教頭
中澤 康徳	2年	常葉学園浜松大学第1回卒・会社職員
小倉 岳彦	9年	常葉学園富士短期大学第1回卒・会社員
稲川 直子	新任	常葉学園短期大学第2回卒・特養老園長
小澤 美佐子	8年	常葉学園高校第13回卒
溝口 由美子	38年10か月	常葉学園高校第6回卒・元常葉学園菊川高校事務長
村上 信也	4年	常葉学園橘高校第7回卒・会社役員
伊藤 元久	9年	常葉学園菊川高校第6回卒・同窓会会長・会社員
町田 益己	30年11か月	常葉学園大学後援会OB会会員・県職員
望月 春雄	2年	常葉学園大学後援会OB会会員・常葉会会長・会社役員
矢部 正則	新任	浜松大学後援会会長・会社員
三澤 賢治	4年	富士常葉大学後援会OB会会長・会社役員
池ヶ谷 恒雄	新任	常葉学園短期大学後援会OB会副会長
前畑 謙次	新任	常葉学園高校PTA顧問・会社役員
山田 誠	4年	常葉学園橘高校第15回卒・PTA会長・県議会議員
大橋 隆夫	2年	元常葉学園菊川高校PTA・後援会会長・菊綾会理事
木宮 和彦	58年 4か月	常葉学園学園長
海野 晴男	19年	前常葉学園副理事長
狩野 義之	6年	常葉学園本部審査監
木宮 満彦	7年 11か月	元常葉学園富士短期大学教授
原田 誠治	新任	株式会社静岡新聞社常勤顧問・主筆
山本 陽一	19年	常葉学園名誉理事
木宮 岳志	1年11か月	常葉学園副理事長・人事監
永井 衛	4年	元静岡大学学長

## (7)教職員の概要

〈平成21年5月1日現在〉(単位：人)

		常葉学園本部	常葉学園大学	浜松大学	富士常葉大学	常葉学園短期大学	常葉高等学校	常葉中学校
教員	本務		95	121	62	42	28	10
	兼務		170	174	125	181	20	13
職員	本務	50	29	26	30	19	4	1
	兼務	37	10	21	18	9	2	0

		橘高等学校	橘中学校	菊川高等学校	菊川中学校	橘小学校	とこは幼稚園	たちばな幼稚園
教員	本務	52	12	55	11	26	12	12
	兼務	46	6	38	8	18	4	3
職員	本務	7	1	5	1	3	1	1
	兼務	0	2	5	0	1	0	0

		医療専	静岡リハ専	常葉リハ病院	総合計
教員	本務	23	11	0	572
	兼務	76	34	0	921
職員	本務	6	4	60	248
	兼務	2	1	24	132

(注) 本務者の平均年齢は、教員48.9歳 職員は43.5歳である。

## 2. 事業の概要

### (1) 事業の概要

現在の教育を取り巻く環境は、初等中等教育においては、学習指導要領の改訂に伴う授業時間や学習量の増加、学校評価や教員免許更新制の実施等、大幅な改革が進められつつある一方、高等教育においても社会貢献の一層の推進、FDの推進による大学教員の質の向上、学士教育の質の保証等が厳しく要求されるなど、学校の設置者に対して、社会はこれまでより以上に良質な教育を提供するよう強く求めています。

本法人においては、こうした社会情勢を踏まえ、建学の精神を教職員共通の基盤として堅持しつつ、財政の健全化を考慮しながら、学生等の募集・確保を第一に据えて、教育内容のレベルアップ、教育施設の充実、教職員研修等を通じた人材の育成、さらには事務システムの改善・改革を図り、静岡県に所在する唯一の総合教育機関として、社会からの期待に応えるよう各種事業を推進いたしました。

このほか、平成21年度における大きな事業としては、7月に世界7カ国・地域から250人の若者を招いて第11回日本国際青少年音楽祭を静岡県内7市町11会場で開催したほか、9月には富士常葉大学において創立10周年記念式典・祝賀会を挙行了いたしました。

### (2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

#### ① 組織の充実・強化

教職員の能力を十分に引き出すとともに組織体としての機能強化を図ることによって厳しい経営環境の中で果敢かつ安定的な経営を実現するため、以下の点について推進しました。

第一に、諸規程の整備については、厳しい財政状況の中で人件費を抑制しつつ有能な若手職員を確保するため、給料表等の改正を行いました。また、幼稚園教諭の適正人数の確保と年齢不均衡を是正するため、幼稚園教諭の給料表等の改正も行ったほか、大学・短大部門に関する組織規程の改正も行いました。

第二に、事務職員の職階制度を規定化し、管理職以前の事務職員の職階を新設するとともに主任と課長の間にも副主査、主査の職階を加えました。これは、勤務に精励した事務職員の給与条件を向上させ、その能力開発を図るとともに学園の組織力を高めることを目的としています。

第三に、監査機能の充実については、平成21年度において学園傘下のすべての学校、リハビリテーション病院及び学園本部に対する内部監査を実施しました。その結果、会計関係、業務関係ともに概ね適正に処理されていることが認められましたが、幾つかの課題も明らかになり、それらの改善に着手しました。

第四に、研修制度については、基本研修及び授業力・事務力向上強化月間制度が2年目を迎え、一応の定着を見ました。また、管理職研修会は県外での2泊3日から県内での2日間の日程に変更し、日常の業務に反映できるような実務的色彩の濃い内容に切り替えました。

第五に、事務システムの見直しについては、平成19年度から計画的に進めて参りました新事務システムへの移行作業を終え、人事・給与システムは平成22年1月から本格稼働し、会計処理システムへも同年4月から稼働いたしました。

このほか、弾力的かつスピード感あふれる法人運営を実践するために平成21年4月から常務理事会を設置。原則として毎週1回開催し、本年度は38回開催するとともに常務理事会運営規程の制定に伴う寄附行為の一部変更も実施いたしました。(平成22年2月15日、文部科学大臣認可)

## ② 財政の健全化

学齢人口の減少や世界的規模の経済危機が、学生・生徒の確保に極めて大きな影響を及ぼすなど、学校法人を取り巻く経営環境がますます厳しさを増す中、建学の精神に基づいた教育・研究によって有為な人材を世に送り出していくためには基盤となる学校法人の財政の健全化が何よりも重要であります。学校法人の主要な収入源は、帰属収入の7割弱を占める学生生徒等納付金と2割弱を占める補助金であります。学生・生徒の減少による納付金の減収や公的機関の財政逼迫、選別化、重点化に向けた施策転換による補助金の減少が予想された中、本法人におきましては、各学校が特色ある教育、研究活動に積極的に取り組んだ結果、対前年度比で経常費補助金が68百万円、施設・設備整備補助金が61百万円、大学改革推進等補助金が23百万円など総額で1億53百万円の増額となりました。科学研究費補助金等の競争的外部資金の積極的な獲得につきましても各大学が努力しております。

また、支出削減・抑制に向けて積極的に見直した結果、管理経費においては対前年度比44百万円の支出を削減することができました。

今後ともこれまで以上に支出の効率化・削減に向け努力してまいります。

さらに、私立学校法で義務付けられている財務の情報公開につきましても、平成17年度に財務書類閲覧事務取扱要項を制定し、財務情報の円滑な公開に努めているほか、学校法人が公共性の高い法人として説明責任を果たし、関係者の信頼や支持をより得られる観点から法人と各学校のホームページに財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監事による監査報告書を掲載し情報提供しているところであります。

## ③ 教育事業

建学の精神を体現した特色ある教育研究活動を実践するという普遍的な教育事業を継続しつつ、時代の要請に即応した斬新な手法も取り入れることによって社会から理解と支持を得て入学(園)者の確保を図り、安定した教学運営を行うことを第一義として、以下に掲げる事業を重点的に推進しました。

i) 大学・大学院、短期大学、専門学校

- 各校は、建学の精神に則った特色ある教育研究活動を実践し、有為な人材を育成して社会に送り出すことはもとより、こうした教育研究活動やアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）等の情報を積極的に発信することにより、入学定員の確保に努力しました。
- 各校は、新たな学習環境に速やかに適応し、かつ専門教育も円滑に受容できるよう新入生に対する入学前教育及び初年次教育のより一層の充実に努めました。
- 各校は、教育力及び事務力の質的向上のためにFD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）を継続して推進しました。
- 教員免許更新制の導入に伴い、大学・短期大学各校は教員免許状更新講習を実施し、高等教育機関としての社会的使命を果たしました。
- 大学・短期大学各校は、特色ある教育・研究活動の実効性をより高めるために教育課程の一部を変更するなど、学則の変更を行いました。
- 課外活動においては、運動関係では浜松大学（男子バスケットボール部・サッカー部・剣道部）、富士常葉大学（水泳部・アルメティット部）、常葉学園短期大学（新体操）の団体・個人が全国大会に出場を果たし、このうち、富士常葉大学では飛込競技第85回日本選手権女子1m飛板飛込（個人）で優勝を飾り、前年度の男子個人に引き続き同大学としては2年連続して全日本チャンピオンを輩出したほか、浜松大学剣道部女子団体がインカレ3位に輝くなど、活躍が目立ちました。また、常葉学園大学外国語学部の学生が、森田杯・英文毎日杯「ペアで紹介する日本文化プレゼンコンテスト」において見事優勝に輝いたほか、高円宮杯第44回全日本スペイン語弁論大会でもNHK賞（準優勝）を受賞、常葉学園短期大学でも音楽科の学生が「音楽と地球・第17回国際コンクール」ピアノ独奏部門で2位に入賞するなど、学術・文化面でも大なる存在感を示してくれました。
- 各校における主要事業の実施状況は以下のとおりです。

<常葉学園大学>

- 教職大学院の基盤整備と募集競争力強化のため、従来の奨学金制度に加え、ストレートマスターの学生に対して入学金・授業料等を免除する新たな学内推薦入試制度を設けて3名を決定するなど、学生募集に工夫を凝らすなどの努力を重ねた結果、教職大学院においては入学定員を充足することができました。
- 教育学部の増強と拡充を図るため、愛知地区の大学の進出が見られる浜松地区において入試を実施したほか、愛知地区の私立大学に対する研究（実地調査）を進めました。また、学長の諮問機関として中期計画検討委員会を設置し、現在計画を検討しております。
- 外国語学習センターの基盤整備のため、オーストラリア・クイーンズランド工科大学と「Australian Culture and Society in English」を締結し、リアルタイムの同時双方向授業を実施しています。

- 人間力育成プログラムの継続と拡充のため、人間力育成委員会、人間力セミナー研究会を設けて調査・意見交換等を行い、「人間力セミナー」に反映させることにより充実を図りました。「学生に薦める100冊の本」Part2の発行準備も進めています。

また、D o - i n g については、「エコキャップ推進運動」等8件を採択し、学生たちが計画に従って進め、その成果についての報告会を実施しました。この事業は、「人間力育成のためのプログラムの推進」として国からの補助金を獲得して2年目になります。

- F D の継続につきましては、平成21年11月に「授業公開日」を設定し、全教員の授業参観を実施した（3年目）ほか、同22年2月にはFDフォーラムも行いました。（4年目）
- 教員免許更新講習は、平成21年8月17日から21日まで本学会場、東部地区会場（県立三島長陵高校）、西部地区会場（文化芸術大学）の3会場で実施し、小学校教員346名、中学校・高校教員（英語）49名の計395名が受講しました。

#### <浜松大学>

- 常葉学園医療専門学校鍼灸学科及び柔道整復学科を発展改組して、浜松大学健康プロデュース学部健康鍼灸学科（入学定員30名）及び健康柔道整復学科（同）を設置するため、平成21年6月に文部科学省に設置の届出を申請して8月に受理され、同22年4月に開設しました。併せてビジネスデザイン学部経営情報学科及びサービスと経営学科の入学定員をそれぞれ150名から120名に変更しました。
- 浜松大学健康プロデュース学部心身マネジメント学科を2学科に分離して、新たに臨床心理学科を設置する構想について検討を進めました。
- 日本高等教育評価機構による第三者評価については、平成21年6月に自己評価作成書を作成して10月に実地調査を受審しました。同22年3月下旬に評価結果が公表され、浜松大学は「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
- 浜松大学全体として入学定員を確保するために、①保健医療学部のPRを継続して強化、②新学科（健康鍼灸学科・健康柔道整復学科）の積極的PR、③オープンキャンパスへの誘引強化、④教員によるきめ細かな高校訪問の実施、等を推進しました。
- 保健医療学部、大学院健康科学研究科設置に伴う事務機構等の整備を進めました。
- 常葉学園の特色ある研修制度の一つである夏季研修当番校として、研修の企画・立案・実施を担当しました。
- F D の推進については、2年目に入った授業方法研究会の実施を軸に継続して推し進めました。
- 様々な授業や行事を通じて1年生に社会人基礎力を身につけさせるためのプログラムについては、より工夫と改良を加え、各部門が計画立てて実践しました。

#### <富士常葉大学>

- 地域に根ざした高等教育機関として地域貢献を果たすとともに入学定員を確保するた

- め、①富士市内全高校（6校）と富士宮市内公立高校（4校）、静岡県東部公立高校（5校）・私立高校（5校）との協定締結による連携強化、②学生主体のオープンキャンパスの実施、③文部科学省学習支援プログラムを活用した行政・商工 団体との地域共同教育の実践、等を推進しました。
- 環境防災学部の改組及び入学定員の見直しを検討した結果、平成21年6月に社会環境学部の設置を文部科学省に届出申請し（入学定員130名、3年次編入学定員10名）、8月に受理され、同22年4月に設置しました。併せて総合経営学部の3年次編入学定員を45名に変更するとともに環境防災学部は平成22年度（編入学は同24年度）から学生募集を停止しました。
  - 第三者評価の実施については、平成22年度に日本高等教育評価機構による評価を受審するための準備作業に着手しました。
  - FD、SDの推進については、FDにおいては平成21年6月及び11月に公開授業を、9月には初年時教育に関わる講演会、同22年3月にはキャリア・FD講演会を実施しました。SDにおいては教務関係研修会への参加、先進大学（岡山商科大学、仙台大学他）への視察、同志社大学FDフォーラムへの参加等を実施しました。
  - 就職支援の充実については、「富士山麓地域共同教育による環境マインド養成のキャリアデザイン」事業が文部科学省の大学改革推進等補助金に採択され、各種キャリア支援教育の充実に充当しました。
  - 教養及び専門教育の充実については、入学前の基礎教育の充実、初年次教育プロジェクトの推進等により所期の目的を果たすことができるよう各種事業を実施しました。
  - 学生交流の充実については、中国の長安大学、大連水産大学との留学生受け入れに関する協定を新たに締結しました。

#### 〈常葉学園短期大学〉

- ライフデザイン力（人間力・基礎力）の強化については、卒業時における学生の実力をアップするため1年生に対してはゼミ（12回）、2年生に対しては他学科の教員による講話を実施しました。
- 名古屋短期大学との相互評価については、平成21年12月に協定書を取り交わし、同22年11月に実施を予定しています。
- 教員免許（幼稚園）更新講習については、平成21年8月24日から28日まで実施し、受講者から高い評価を得ることができました。
- 入学定員を確保するために、①平成21年12月までの入学者獲得目標を設定（日文79%、英文91%、保育94%、音楽90%）、②各科におけるDM活動、大学祭におけるミニオープンキャンパスの実施、③授業体験ツアーの実施（日文、英文）、④同窓生子女特典の継続（該当者23名）、奨学生制度の改訂、リピーター受験割引制度の検討、等を推進しました。

#### <医療専門学校>

- 浜松大学保健医療学部との相互協力関係の構築については、施設の共用においては円滑に実施し、専門基礎分野における教育においても保健医療学部の教員から全面的な支援を得て順調に推移しています。
- 鍼灸学科、柔道整復学科の発展改組については、浜松大学健康プロデュース学部健康鍼灸学科（入学定員30名）及び健康柔道整復学科（同）を設置するため、平成21年6月に文部科学省に設置の届出を申請して8月に受理され、同22年4月に開設しました。このことに伴い、本校は平成23年度をもって廃止を予定しているため、在校生に留年生が出ることはないよう特に指導・助言の強化に努めています。

#### <静岡リハビリテーション専門学校>

- 募集活動の見直しによる志願者の確保については、オリジナルでわかりやすい説明資料を作成して学生募集に努めました。
- 臨床実習への指導対策の実施については、臨床実習の実効性を高めるよう、少人数グループによるゼミ学習の実践に努めました。
- 国家試験受験者全員合格の目標については、少人数グループのゼミ学習、定期的な模擬試験の実施等により学生の学力向上に努めた結果、平成21年度の国家試験合格率は98.3%にまで達しました。

#### ii) 高等学校、中学校、小学校

- 各校は、建学の精神及び各校独自の教育目標に則った特色ある教育活動を実践するとともにこうした学校情報を積極的に発信して生徒募集を強化することにより、入学定員を確保するよう努めました。
- 各校は、本学園がもつ総合学園としての特性を十分認識し、さまざまな機会を捉えて系列校間の連携を発展させることにより相互理解を深め、多くの児童・生徒が系列校に進学するよう努めました。
- 各校は、学園内研修はもとより、専門性の高い多様な外部研修にも積極的に参加を図り、教職員の能力開発及び育成に努め、その成果を教育活動や各種指導（進路、生徒、部活動、委員会活動等）に反映し、学校の活性化に努めました。
- 各校は、教育活動や組織を活性化し、学校全体の教育力を高め、保護者や地域住民の信頼と期待に応える学校づくりを行うために「学校評価」を実施しました。
- 各校は、授業時間の確保や教育効果を高めるための条件整備、学習指導要領改訂に伴う移行措置への対応等により、学則の変更を行いました。
- 部活動においては、橘高校野球部が春夏通じて初の甲子園大会出場を果たし3回戦に進出したほか、庄司選手が広島にドラフト4位で指名され、同高初のプロ野球指名選手が誕生

生しました。このほかにも常葉高校（新体操部）、橘高校（女子サッカー部・水泳部・柔道部・少林寺拳法部）、菊川高校（空手道部・女子ソフトボール部）、常葉中学（バスケットボール部・体操部）、橘中学（女子サッカー部・水泳部・柔道部・軟式野球部）の団体・個人が全国大会へ出場を果たし、このうち橘中学野球部は第1回全日本少年春季軟式野球大会で見事準優勝に輝きました。

また、菊川高校の美術・デザイン科（個人）が国際美術展で佳作、菊川中・高では数検グランプリで金賞を獲得するなど、学術・文化面においても活躍を見せました。

- 各校における主要事業の実施状況は以下のとおりです。

#### 〈常葉中学・高校〉

- 特色ある学校づくりについては、生徒の可能性を引き出し、自立を促す指導を各分掌と学年で実践し、教育目標の共有化に努めました。また、英語教育の特色化のために6カ年英語教育プログラムの作成・指導計画の確立を推進しました。
- 組織力・教育力の高揚のために、生徒の満足度を高める授業の実践、情報の共有化による意思疎通の浸透、各種研修会等への積極的な参加等を実施しました。
- 募集活動については、①ホームページ上のトピックスの頻繁な更新による新鮮な情報の提供、②学校やコースの特色をわかりやすく掲載した学校案内やリーフレットの作成、③学生募集に関わる説明会・行事等へのより積極的な参加、等を通じて充実を図りました。
- 学校評価については、平成22年度の公開に向けて評価項目と方法を検討しました。

#### 〈橘中学・高校〉

- 生徒募集については、①ホームページのリニューアル、②プレテスト（2回－中学）の実施、③授業体験会（3回－高校）の実施、等を通じて充実を図りました。
- 教育力をより向上させるため、各種研修への参加、授業研究会の実施、公開授業の実施等による教員の資質向上や中・高一貫教育の充実、高校の指導内容の充実（いずれも面倒見のよさの復活）等を推進しました。
- 新たなイメージづくりの一環として、平成22年度から制服を変更することにしました。

#### 〈菊川中学・高校〉

- 生徒募集については、①ホームページのリニューアル、②新聞の折込チラシによるPRの推進（267,000部）、③学習塾に対する積極的なアプローチ、等を通じて充実を図りました。
- 教育力向上については、各種研修への参加、授業研究会の実施、各分掌主催の研修会等による教員の資質向上を推進しました。また、進学実績向上については、進研模試・スタディサポートの積極的な受験、中・高のシラバスの統合、等を進めた結果、本校で初めて東大合格者（現役）を輩出したほか、国公立・難関私立大学へも多くの合格者を出すことができました。
- 学校自己評価を実施するとともに学校関係者評価委員会を設置しました。

### 〈橘小学校〉

- 児童募集については、①学校案内の一新とホームページ上のトピックスの頻繁な更新による新鮮な情報の提供、②参加者をリピーターにする魅力的な学校説明会（学校体験、バーベキュー交流）の実施、③入試日程の前倒し、等を通じて充実を図りました。
- 橘小教育の成果再発見については、日記の指導や学ぶ姿勢づくりとノート指導の徹底等に努めました。
- 新学習指導要領実施に向けた研修体制の確立については、教科別対比表の作成、年間授業研究等を推進しました。
- 小学校「英語教育」については、常勤の日本人教師の配置、「読み」を基本とした指導の強化等を実施し、改善に努めました。
- 教育機器を生かした授業改善については、豊田順介教育振興基金及び文部科学省の補助金を活用して機器を導入し、IT教育を実践しました。

### iii) 幼稚園

- 両園は、教育活動や組織を活性化し、園全体の教育力・保育力を高め、保護者や地域住民の信頼と期待に応える幼稚園づくりを行うために「学校評価」を実施しました。
- 両園は、短期大学附属という特性を最大限発揮し、他園にはない特色ある幼児教育を実践することにより保護者や地域住民からの理解と支持を得て入園児の確保に努めました。
- 両園は、教育課程の見直しや教育環境のさらなる充実を図り、魅力ある幼稚園づくりに努めました。

### 〈とこは幼稚園〉

- 保育の向上については、教育課程の改善、教諭の資質向上、自己評価・学校関係者評価の推進等を通じてさらなる向上に努めました。
- 園児募集については、①未就園児教室の充実、②ホームページの有効活用、③見やすく分かりやすい幼稚園案内の作成、等を通じて充実を図りました。
- このほか、降園時間の改善・スクールバス路線の検討、地域社会との積極的な関わり、短大や附属幼稚園間との交流拡大、園庭環境の整備等を通じて他園との差別化・特色化を図りました。

### 〈たちばな幼稚園〉

- 園児募集については、①未就園児教室あそびの会の実施、②園舎新築を打ち出した募集戦略、③ホームページの充実、等を通じて計画的に推進しました。
- 短大附属幼稚園としての魅力の確立については、保護者と短大教員との交流の場の提供、職員研修に対する短大教員の派遣を実施しました。
- 英語教育については、橘小学校の英語教員からの指導による生きた英語教育を実践し、

充実に努めました。

- 新園舎建設計画については、本部管財課と綿密な連携のもとで推し進め、平成23年1月から新園舎での保育を行う予定となっています。

#### IV) 豊田順介奨学基金

幼稚園から高等学校までの教育振興のために寄附いただいた「豊田順介奨学基金」の活用状況は、次のとおりです。

○中・高等学校	34件	8,206千円
○小学校	5件	4,740千円
○幼稚園	1件	30千円
計	40件	12,976千円

#### V) その他

本年度における学生・生徒等募集状況においては、厳しい環境にありながらも学園全体としては志願者・入学者ともに前年度を上回る結果を残すことができました。しかしながら個々の学校単位では、志願者の減少や入学定員割れを起こしているところもあります。それらの学校においては、原因を正確に分析したうえで来年度の募集計画を再構築し、計画的できめ細かな募集活動を展開してまいります。また、それ以外の学校においても安定した学生・生徒等募集を継続するため、特色ある教育研究活動の推進等、より一層の工夫に努めてまいります。

一方、就職状況においては、超氷河期の再来といわれた厳しい雇用環境下にありながらも、学生個々の努力と就職担当部門の効果的な支援活動が相乗効果をあげ、各校ともに良好な結果を残すことができました。特に、常葉学園大学においては教員採用試験、富士常葉大学では公務員試験における健闘ぶりが目立っています。<別表1>

〈別表1〉

平成21年度における入試状況及び就職状況

(平成22年5月1日現在)

学校名	学部学科名	入学定員(人)	入学者数(人)	就職内定率(%)
常葉学園大学	教育学部			
	初等教育課程	110	127	99.1
	生涯学習学科	60	65	85.7
	心理教育学科	60	77	96.7
	外国語学部			
	英米語学科	100	131	82.6
	グローバルコミュニケーション学科	70	73	88.2
常葉学園大学	造形学部			
	造形学科	80	97	75.5
浜松大学	ビジネスデザイン学部			
	経営情報学科	150	65	—
	サービスと経営学科	150	107	—
	健康プロデュース学部			
	健康栄養学科	80	65	82.9
	こども健康学科	60	40	92.5
	心身マネジメント学科	110	102	88.7
	健康鍼灸学科	30	3	—
	健康柔道整復学科	30	9	—
	保健医療学部			
	理学療法学科	40	52	—
	作業療法学科	40	21	—
	経営情報学部			
	経営情報学科	—	—	73.4
	情報ネットワーク学科	—	—	72.2
浜松大学	国際経済学部			
	国際経済学科	—	—	85.0
富士常葉大学	総合経営学部			
	総合経営学科	160	176	85.0
	環境防災学部			
	環境防災学科	—	—	79.0
	保育学部			
保育学科	80	88	100.0	
富士常葉大学	社会環境学部			
	社会環境学科	130	104	—
常葉学園短期大学	日本語日本文学科	80	49	51.6
	英語英文科	80	64	75.9
	保育科	200	206	98.4
	音楽科	55	43	77.8
常葉学園 医療専門学校	理学療法学科	—	—	97.5
	作業療法学科	—	—	88.0
	鍼灸学科	—	—	70.6
	柔道整復学科	—	—	78.3
常葉学園静岡 リハビリテーション 専門学校	理学療法学科	80	49	100.0

※ 大学院、専攻科、留学生別科、編入学、高校以下は除く

#### ④ 教育環境の整備・充実

より充実した教育の実現を図るため、学生・生徒等の学習ニーズの多様化や学校を取りまく社会環境の変化に対応した施設設備の整備が重要であり、教育環境を充実・向上するための整備事業を実施しました。

また、経年により老朽化が進む施設設備についても計画的に更新や補修等の整備を実施しました。

主な整備事業は次のとおりです。

- ・常葉学園大学 … 本館空調機更新、本館E V改修、情報通信ネットワーク整備 等
- ・浜松大学 … 本館2階研究室空調機更新、保健医療学部設置に伴う医療専改修、健プロ学部健康鍼灸・柔道整復学科設置に伴う医療専改修 等
- ・富士常葉大学 … 動物施設空調システム整備、空調機デマンドシステム導入 等
- ・常葉短期大学 … PC教室パソコン更新、図書館入退館システム更新 等
- ・常葉中・高等学校 … 本館他6教室空調機更新、情報教室コンピュータ更新 等
- ・橘中・高等学校 … 寄宿舍新築、中学用駐輪場整備 等
- ・菊川中・高等学校 … 本館屋上・外壁改修、美術館前ポーチ改修 等
- ・橘小学校 … IT教育設備整備
- ・たちばな幼稚園 … 新園舎改築工事設計
- ・常葉リハビリテーション病院 … 電子カルテ導入、南館空調機更新 等
- ・本 部 … グリーンフィールド人工芝改修 等

### (3) 施設等の状況

#### ① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりです。

所在地	施設等		面積等	帳簿価額	
常葉学園大学 静岡市	校地		52,559㎡	1,222,108千円	本館、1号館、2号館、 3号館、サテライトビル
	校舎等	6棟	30,195㎡	3,082,564千円	
川根本町	寄宿舍	1棟	639㎡	82,282千円	川根実習施設
浜松市	校地		2,564㎡	271,427千円	三ヶ日セミナーハウス
	寄宿舍	1棟	733㎡	118,712千円	
菊川市	校地		11,524㎡	160,665千円	
	校舎	3棟	9,184㎡	668,985千円	
浜松大学 浜松市	校地		190,698㎡	2,735,721千円	本館、1号館、2号館、 3号館、5号館、 トコハホール
	校舎等	13棟	33,858㎡	5,053,000千円	

所在地	施設等		面積等	帳簿価額	
富士常葉大学 富士市	校地		88,552㎡	1,942,056千円	1号館、2号館、3号館
	校舎 等	6棟	20,617㎡	2,733,786千円	
常葉学園短期大学 静岡市	校地		42,892㎡	1,582,814千円	本館、2号館、3号館、 4号館、5号館、6号館、 7号館、8号館、T号館
	校舎 等	11棟	15,149㎡	1,153,204千円	
常葉学園中・高等学校 静岡市	校地		42,903㎡	2,368,605千円	本館、北館、東館、 南館、図書館、 常葉会館
	校舎 等	8棟	10,506㎡	156,578千円	
常葉橘中・高等学校 静岡市	校地		46,912㎡	369,472千円	本館、音楽棟、美術棟、 新館、和敬庵 尚志館、行之館、橘志 館
	校舎 等	9棟	18,349㎡	814,515千円	
常葉菊川中・高等学校 菊川市	校地		73,920㎡	751,815千円	本館、東館、北館、 南館、新館、光葉館、 美術棟
	校舎 等	9棟	13,917㎡	904,783千円	
常葉学園橘小学校 静岡市	校地		13,806㎡	855,666千円	本館、オーケストラレッ スン室
	校舎	2棟	4,113㎡	265,999千円	
とこは幼稚園 静岡市	園地		2,500㎡	171,875千円	
	園舎	1棟	1,361㎡	264,011千円	
たちばな幼稚園 静岡市	園地		3,973㎡	249,821千円	
	園舎	3棟	1,366㎡	33,594千円	
医療専門学校 浜松市	校地		14,901㎡	127,008千円	1号館、2号館
	校舎	2棟	7,373㎡	856,546千円	
静岡リハビリテーション専門学 校 静岡市	校地		1,033㎡	1,000,036千円	
	校舎	1棟	3,181㎡	453,138千円	
リハビリテーション病院 浜松市	土地		5,255㎡	135,548千円	
	病院	1棟	6,132㎡	81,248千円	
学園本部 静岡市	土地		6,776㎡	471,454千円	学生寮、研修センター、 迎賓館、スイミング
	寄宿舍 等	4棟	6,560㎡	395,427千円	
伊豆の国市	土地		334㎡	17,000千円	現在使用していない。
浜松市	土地		59,182㎡	503,938千円	
合 計(平成22年3月31日現在)	土地		660,284㎡	14,937,028千円	
	建物		183,233㎡	17,118,373千円	
				32,055,401千円	

② 主な施設設備の取得又は処分の状況

平成21年度の主な施設設備の増減は次のとおりです。

ア) 施設設備の取得

- ・常葉学園大学 情報通信ネットワーク構築  
取得数量：一式 取得金額：33,495千円（国庫補助金16,749千円）
- ・富士常葉大学 動物施設空調システム新設  
取得数量：一式 取得金額：72,568千円（国庫補助金36,283千円）
- ・常葉橘中・高等学校 寄宿舎新築  
建物面積：567㎡ 取得金額：96,201千円

イ) 施設設備の処分

- ・常葉橘中・高等学校 野球部寮解体撤去  
建物面積：587㎡ 除却金額：7,137千円
- ・学園本部 職員寮（塚田寮）解体撤去  
建物面積：660.12㎡ 除却金額：8,357千円
- ・学園本部 志賀高原ヒュッテ無償譲渡  
建物面積：916.99㎡ 除却金額：837千円
- ・とこは幼稚園 旧園地の管理換  
売却処分とするため基本財産から運用財産に管理換  
土地面積：2,229.46㎡ 固定資産価格：41,599.9千円  
大和ハウス工業(株)と売買契約を締結（2/26）、平成22年6月頃譲渡予定

ウ) 施設設備の用途変更

- ・常葉学園医療専門学校の一部を浜松大学（保健医療学部）に用途変更  
常葉学園医療専門学校理学療法学科及び作業療法学科を浜松大学保健医療学部への系  
改組に伴い、同専門学校の校地・校舎の一部を浜松大学の校地・校舎に用途変更しました。

変更面積

		旧	新	増減
土地	医療専	22,412.28㎡	14,901.42㎡	▲7,510.86㎡
	浜松大	183,187.07㎡	190,697.93㎡	+7,510.86㎡
校舎	医療専	8,406.51㎡	7,372.59㎡	▲1,033.92㎡
	浜松大	31,571.86㎡	32,605.78㎡	+1,033.92㎡

#### (4) その他

##### ① 理事会の開催状況

- 第1回 平成21年 4月 1日 (水)
- 第2回 平成21年 5月16日 (土)
- 第3回 平成21年 5月16日 (土)
- 第4回 平成21年 7月21日 (火)
- 第5回 平成21年10月17日 (土)
- 第6回 平成21年12月19日 (土)
- 第7回 平成22年 3月20日 (土)
- 第8回 平成22年 3月20日 (土)

##### ② 評議員会の開催状況

- 第1回 平成21年 5月16日 (土)
- 第2回 平成21年 7月21日 (火)
- 第3回 平成21年10月17日 (土)
- 第4回 平成21年12月19日 (土)
- 第5回 平成22年 3月20日 (土)

##### ③ 監事監査の実施状況

- 第1回 平成21年 5月12日 (火)
- 第2回 平成21年12月 7日 (月)
- 第3回 平成22年 3月16日 (火)

### 3. 財務の概要

#### (1) 財務の概要

本学園の財政運営に当たっては、「学校経営の安定を図り、健全な学校運営を行うため、堅牢な財政基盤の構築と徹底した支出の削減」を基本目標に、経営の合理化に努めてまいりました。

平成21年度における消費収支上の主な財務の概要は次のとおりです。

平成21年度の帰属収入(消費収支計算書参照)は、126億63百万円と対前年度比1億3百万円増加しましたが、これは主として学生生徒等納付金の1億33百万円や寄付金のうち現物寄附金が1億6百万円減少したものの、補助金が1億53百万円、資産運用収入等のうち、事業収入や県退職金社団からの受入収入が2億22百万円増加したことによります。

また、基本金組入額は、浜松大学の新学部設置により医療専門学校の土地及び建物の一部移管、環境情報専門学校の建物を浜松大学に移管及び橘高校からたちばな幼稚園へ土地を振り替えたことなどにより2億94百万円増加しました。

一方、消費支出は116億22百万円と対前年度比1億66百万円増加しました。これは、節約により管理経費が対前年度比44百万円減少しているものの、教育研究経費の若干の増加や人件費が対前年度比で1億66百万円増加していることによるものです。この結果、消費収入から消費支出を控除した当年度消費支出超過額は、97百万円となっております。

次に貸借対照表の概要ですが、資産の部は、対前年比9億80百万円増加しております。これは、有形固定資産のうち建物、構築物が5億62百万円、その他の流動資産のうち短期有価証券が10億42百万円減少しているものの、その他固定資産のうち財政調整資金引当特定資金が19億20百万円、現金預金が5億90百万円増加していることなどによります。

基本金は、当期取崩しが4億59百万円あるものの、当期組入れが11億38百万円あるため対前年比6億79百万円増加しております。

(3) 消費収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,547	8,680	8,671	8,401	8,068
	手 数 料	172	163	158	183	206
	寄 附 金	130	317	239	77	86
	補 助 金	2,250	2,097	2,131	2,104	2,107
	資 産 運 用 収 入 等	1,562	1,303	1,217	1,341	1,372
	帰 属 収 入 合 計	12,661	12,560	12,416	12,106	11,839
	基本金組入額合計	△ 1,137	△ 844	△ 887	△ 1,091	△ 3,417
	消費収入の部合計	11,524	11,716	11,529	11,015	8,422
消費支出の部	人 件 費	7,630	7,492	7,314	7,370	6,879
	教 育 研 究 経 費	2,949	2,913	2,909	2,782	2,798
	管 理 経 費	932	983	1,000	1,061	1,009
	借 入 金 等 利 息 等	75	68	44	44	59
	消費支出の部合計	11,586	11,456	11,267	11,257	10,745

## (2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

科 目 名		平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,547	8,680	8,671	8,401	8,068
	手 数 料 収 入	172	163	158	183	206
	寄 附 金 収 入	88	115	188	48	52
	補 助 金 収 入	2,250	2,097	2,131	2,104	2,107
	資 産 運 用 収 入	210	176	163	189	198
	資 産 売 却 収 入	1	1	1	272	16
	事 業 収 入	759	709	688	649	773
	雑 収 入	593	417	366	502	303
	前 受 金 収 入	1,723	1,706	1,728	1,928	2,011
	そ の 他 の 収 入	4,789	6,753	4,084	2,714	1,431
	資金収入調整勘定	△ 2,385	△ 2,273	△ 2,362	△ 2,341	△ 2,108
	前年度繰越支払資金	5,780	3,722	5,158	6,599	5,291
	合 計	22,527	22,266	20,974	21,248	18,348
	支出の部	人 件 費 支 出	7,628	7,490	7,314	7,311
教育研究経費支出		1,801	1,774	1,788	1,650	1,692
管 理 経 費 支 出		823	876	903	970	917
借入金等利息支出		24	26	24	26	29
借入金等返済支出		87	87	87	95	95
施 設 関 係 支 出		340	517	964	895	932
設 備 関 係 支 出		278	337	328	151	272
資 産 運 用 支 出		4,804	5,368	5,555	4,857	218
そ の 他 の 支 出		993	641	632	445	946
資金支出調整勘定		△ 621	△ 630	△ 343	△ 310	△ 231
次年度繰越支払資金		6,370	5,780	3,722	5,158	6,599
合 計		22,527	22,266	20,974	21,248	18,348

## (4) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目 名		平成22年3月31日	平成21年3月31日	平成20年3月31日	平成19年3月31日	平成18年3月31日
資 産 の 部	固定資産	44,356	43,081	42,535	40,941	41,638
	土 地	14,937	14,937	14,700	14,700	13,910
	建 物 ・ 構 築 物	17,766	18,328	18,778	18,671	19,430
	機 器 備 品	1,647	1,787	1,878	1,959	2,186
	図 書	2,712	2,674	2,602	2,536	2,496
	その他の固定資産	7,294	5,355	4,577	3,075	3,616
	流動資産	9,920	10,216	9,479	9,837	8,234
	現 金 預 金	6,370	5,780	3,722	5,158	6,599
	その他の流動資産	3,550	4,436	5,757	4,679	1,635
	合 計	54,276	53,297	52,014	50,778	49,872
負 債 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 の 部	固定負債	2,193	2,277	2,362	2,128	2,157
	長 期 借 入 金	826	913	1,000	766	853
	退 職 給 与 引 当 金	1,367	1,364	1,362	1,362	1,304
	流動負債	2,650	2,662	2,400	2,546	2,461
	短 期 借 入 金	87	87	87	87	95
	前 受 金	1,736	1,717	1,741	1,940	2,023
	その他の流動負債	827	858	572	519	343
	基本金	50,437	49,758	49,084	48,207	47,226
	消費収支差額の部合計	△ 1,004	△ 1,400	△ 1,832	△ 2,103	△ 1,972
	合 計	54,276	53,297	52,014	50,778	49,872

## (5) 主な財務比率比較

(単位: %)

比率名	算式	21年度	20年度	19年度	18年度	17年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	8.8	8.8	9.3	7.0	9.2
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	99.4	97.8	97.7	102.2	127.6
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	67.4	69.1	69.8	69.4	68.1
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	60.2	59.6	58.9	60.9	58.1
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	23.3	23.2	23.4	23.0	23.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	7.3	7.8	8.1	8.8	8.5
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	374.8	383.7	395.0	386.3	334.5
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	9.7	10.2	10.1	10.1	10.2
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	91.1	90.7	90.8	90.8	90.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.1	97.7	97.8	98.2	97.9

## (6) 借入金の状況

借入先	借入金額(千円)	借入残高(千円)	利率(%)	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	558,000	93,000	4.9	平成24年9月	土地、建物
〃	1,000,000	499,950	2.2	平成30年9月	土地、建物
〃	320,000	320,000	2.1	平成39年9月	土地、建物
合計	1,878,000	912,950			

## (7) 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額(円)	摘要
一般寄付金	浜松大学後援会	16,000,000	通学バス管理委託費
一般寄付金	浜松大学(学校行事支援整備会計)	13,900,000	通学バス管理委託費
特別寄付金	(財) 河川環境管理財団	3,520,000	研究費(富士大・重川教授)
特別寄付金	京都大学	5,000,000	研究費(富士大・重川教授)
特別寄付金	(独法) 科学技術振興機構	3,250,000	研究費(富士大・田中教授)
特別寄付金	日本私立学校振興・共済事業団	4,945,000	芸術文化振興(受配者指定)
特別寄付金	日本私立学校振興・共済事業団	5,000,000	教育・研究(受配者指定)
特別寄付金	菊川高等学校PTA、後援会	5,355,000	空調機取付工事費
現物寄付金	橘中・高等学校卒業生	4,013,850	卒業記念品(スポーツトラクター、倉庫等)
現物寄付金	医療専門学校後援会、学友会	3,500,000	テニスコート夜間照明設備工事

## (8) 補助金の状況

私立大学等経常費補助金については、4大学合計で8億33百万円余、静岡県私立学校経常費補助金(専門学校、高中校、小学校、幼稚園が対象)については、11校合計で12億44百万円余の交付を受けています。